

論文要旨

1. 李琪琪(リ キキ・中国)

「日本独特のマスク文化 –日本が「マスク大国」と呼ばれる理由–」

キーワード: マスク、マスク着用歴史と現状、物理的自己防衛、心理的な自己防衛、マスク依存症

要旨: 近年、日本ではマスクを着用する人が増えている。町中を歩いている時も車に乗る時も買い物をする時も、どこに行ってもマスク姿の人が見られる。さらに、マスクを離さない「マスク依存症」の人やマスクでお見合いをする活動なども出てきた。一方、日本以外の外国ではマスクをする習慣があまりない。よって、日本のマスク文化に驚く外国人は少なくないだろう。

本稿は日本のマスク文化を明らかにするため書いたものである。まず、日本のマスクを紹介し、外国のマスクと比較しながら日本のマスクの多様性を見る。そして、日本におけるマスク着用の歴史を簡単に説明して、東日本大震災のマスクへの影響に注目する。次に、「マスクは日本人にとっては何か」という問題を中心に、物理と心理の二つの角度からマスク着用の理由を分析する。最後に、日本のマスクについて臨床心理師へのインタビューと日本人学生と留学生へのアンケート調査を行った。この調査から、外国と違い、日本ではマスク着用が人々の日常生活の一つの習慣として社会に受け入れられていることが分かった。

2. バークベックジョーンズ・トビー(ニュージーランド)

「昔むかしあるところにマオリ族がいました –マオリ族の民話の分析–」

キーワード: マオリ族の歴史と社会、マオリ族の民話の分類と特徴、マナ、タブ、ウトウ

要旨: 民話とは、往古より現代まで口頭で伝承されてきた話である。日本の民話と言えば、桃太郎や平家物語などの話を思い出すだろうが、マオリ族の民話と言えばどうだろうか。マオリ族は、ニュージーランドの先住民で、1300 年代にニュージーランドに移住して以来、独特な社会が有していたが、英国人の登場によって生じた社会の激変で、彼らの日常生活は急激に変わった。そこで、マオリ族の伝統的な文化は絶滅の恐れがあったが、1970 年代のデモ活動により先住民に対する関心が徐々に高まってきた。現代のマオリ族の文化は、ニュージーランドのアイデンティティに強く結びついている一方、民話に関する研究は十分とはいえない。

マオリ族の民話の特徴と適切な分類方法を提示することが本稿の目的である。筆者は、マオリ族の民話を創造譚、説明話などの 5 つの種類に分類した。さらに特徴として、暴力、嫁誘拐・嫁探し、罾作り・工夫などを指摘した。この新たな分類方法でマオリ族の民話は以前より有効に整えることができ、ニュージーランド人とマオリ族にとって民話へのアクセスがはるかに良くなると言える。

3. テグ・プラサラ(インドネシア)

「なぜスマートフォン・ゲームに課金するのか」

キーワード: スマートフォン・ゲーム、スマートフォン、ゲーム、iPhone、Android、課金、動機

要旨: 現在、スマートフォンはフィーチャーフォンより広く利用されている。2016 年にはスマートフォンの所持者が全世界で 20 億人を突破するという調査予測もある。スマートフォンの普及が広がるにつれ、スマートフォンのゲーム(スマートフォン・ゲーム)も進化し、そのアプリに人気が集まり、それに伴い不思議で面白い現象が発生している。それは、欲しいアイテムが手に入れられるかどうかわからない「ガチャ」というス

スマートフォン・ゲームの仕組みに、数十万円も課金する日本人がいるということである。

本論文では、まずスマートフォンの歴史、スマートフォンとアプリの普及率とシェアの現状について述べた。そして、日本人とインドネシア人にアンケートを実施し、スマートフォン・ゲームをプレイする動機とスマートフォン・ゲームに課金する動機を分析した。その結果、最も一般的な課金の動機は、キャラクターとアイテムの収集であることを明らかにした。

4. デスクスト・シャルル(フランス)

「人間と塩の関係 —ヨーロッパと日本の塩、その信仰と表現の比較から—」

キーワード: 塩、塩の生産方法、キリスト教と聖書、清め塩、表現の比較

要旨: 塩は生き物にとって、人間にとって不可欠な資源であり、昔から現在まで塩は日常生活の中心にある。塩は歴史の中で重要な役割を務め、生産方法が進歩するとともに人間の生活は変化した。西ヨーロッパ(主としてフランス)と日本の塩の歴史、用途を比べ、両国の信仰や宗教はどのように塩を扱うのかを明確にし、民間に伝わる表現をもとにして文化を比較する。

西ヨーロッパと日本にまつわるデータや情報を得るために、塩についての書物と研究成果を利用し、塩の生産企業のサイトで情報を得て分析した。

キリスト教と神道はともに通に塩に清める力というものを与えているが、さらにキリスト教では、悪魔を防ぐものだけでなく、「不毛と死」の意味をも付与するという二元性を認めているのである。そしてヨーロッパと日本にある多数の塩にまつわる表現を通して、人間は塩をどのようにとらえているのかを明らかにする。その結果、塩は友情の象徴、慎重、純粋や裕福の意味等を持っていることが分かった。

5. シン・テレンス(オーストラリア)

「キリスト教の視点から見る日本 —キリスト教受容の歴史を中心に—」

キーワード: キリスト教、日本におけるキリスト教受容の歴史、キリシタン、日本文化と西洋文化の融合と衝突、クリスマス

要旨: 日本と言えば、西洋文化と強く結び付いているキリスト教はあまり思い浮かばない。だが、現在の日本では、キリスト教徒は約1%に過ぎないものの、キリシタンの遺跡やクリスマスを初めとしたキリスト教関連の行事は少なくない。

キリスト教が日本に流入する機会は3回あったと考えられる。1回目は戦国時代のイエズス会による「キリシタン時代」、2回目は明治時代であった。当時、日本は宣教師にもたらした貿易や西洋知識を積極的に受容したが、キリスト教の思想そのものは江戸時代の封建主義と明治時代の国家主義と相いれなかったため、結局、キリスト教徒は弾圧を受け、「邪教」や「非国民」とされた。3回目は戦後で、困難な生活の中、アメリカ文化の豊さに憧れキリスト教の持つクリスマスの雰囲気が出た時期である。だが、日本でのクリスマスは宗教的なイメージがほぼなく、西洋への憧れを表している行事となっている。

本稿では日本のキリスト教に関する観光地や事件、またキリスト教信者へのインタビューをもとに日本のキリスト教受容の歴史を述べ、キリスト教の視点から日本文化と西洋文化の融合と衝突を分析した。

6. ウィークルンド・シモン(スウェーデン)

「武士の遺産 —新渡戸稲造の「武士道」は日本人若者に生きていますか—」

キーワード:新渡戸稲造、武士、武士道、道徳、不文律、近代化、日本人

要旨:外国人の視線で日本社会及び日本人を詳しく理解するのは非常に難しい。明治維新から、日本社会は欧米の影響で確かに変わったと言わざるを得ないが、その基本的な相違の根源はどこから生じたか、様々な意見がある。新渡戸稲造という日本人思想家によると、それは古代の武士の道徳的な主義、「武士道」である。1933 年に新渡戸は日本社会を海外の人々に紹介するために『武士道』という本を出版し、欧米でも日本でもベストセラーになった。

本論文は、新渡戸が述べた「武士道」がまだ現代の日本人の若者に無意識的に生きているかどうかを評価することを目的とした。そのため、『武士道』に対する社会的な研究及び海外にそのような無意識的な不文律があるかを検討し、アンケート調査を行った。そのアンケートの結果から、確かに『武士道』に書かれた道徳全体が生きているわけではないが、ある道徳の部分は間違いなく存在していると分かった。しかし、社会が一つの影響で発展する可能性は低いので、その道徳が『武士道』だけから生じたかは不明であった。

7. 王卉怡(オウ キイ・中国)

「中国の美容美髪所と日本の理容美容所における問題点と特徴」

キーワード:中国の美容美髪所、日本の理容美容所、問題点と特徴、日本人男性の理容美容所の利用状況

要旨:本稿は、中国の美容美髪所と日本の理容美容所における問題点と特徴を究明するという目的で執筆した。そのため、両国の美容美髪理容分野の現状を調べた。

現在、中国の美容美髪業界では様々な問題が存在している。日本と同程度の衛生管理に対する規範要領があるが、日本ほど十分に遵守されていないことが問題である。また、中国の美容美髪師の教育水準が低く、彼らへの偏見が強いという社会現状が懸念されている。そこで、日本と同様に、中国の美容美髪師の教育水準の向上と彼らに対して正しい見方がなされることを期待する。さらに、中国の美容美髪業界では、「美容美髪消費カード」が様々なトラブルを引き起こしている。この問題を解決するため、消費カードについての専門的な法律の制定が迫られる。

日本には、理容所に行く傾向にある男性と美容所に行く傾向にある男性に分かれているという独特の現象がある。そこで、日本人男性の理容所／美容所の利用状況を調べるためにアンケートを実施し、145 枚の回答を得た。

8. ヨンソン・エミル(スウェーデン)

「在日朝鮮語における発音分析 — 語頭子音による破裂音の比較調査 —」

キーワード:在日コリアン、在日朝鮮語、語頭破裂音、有声・無声音、平音・激音・濃音、発音比較調査、VOT(Voice Onset Time)

要旨:現在日本には約 34 万人の在日コリアンがいる。彼らは世代や出身地によって様々に分類されているが、彼らの共通点の 1 つは、本国の言語と日本語との混同から生まれた「在日朝鮮語」と呼ばれる民族的事物である。在日 1 世はもともと朝鮮・韓国語の母語話者であるが、その以降の在日コリアンは日本に生まれ、日本語を母語とする。ゆえに、祖先の原語を身につけるため、日本で建てられた民族学校に通学、あるいは独学等の方法で学んでいる。しかし、自分の出自を知られたいくない在日コリアンが多く、朝

鮮・韓国語の習得は減少傾向が見られる。

本稿は、スウェーデン人である筆者の第3者としての観点で、在日朝鮮語の発音、特に子音の語頭破裂音を調査した。朝鮮・韓国語の3項対立(平音・激音・濃音)を持つ破裂音の日常的な単語の組み合わせを設定し、在日朝鮮語との発音比較調査を実施した。岐阜大学の韓国人留学生および岐阜県本部在日本大韓民国民団という2つのグループを対象とし、設定した単語の発音を録音した。次いでその音響データを分析し、VOT(Voice Onset Time)に関する値を比較し、日本語からの影響があるかどうかを明らかにした。

9. サムツキーリー・アネチャー(タイ)

「日タイにおける障がいのある学生への対応の比較 —岐阜大学とカセサート大学におけるサービスと中心に—」

キーワード:障がいのある学生へのサービス、障害者差別解消法、DSS(Disability Support Service)センター、岐阜大学、カセサート大学

要旨:今年の4月に日本で障害者差別解消法が施行されたため、日本全国の全ての国立大学法人で障がいのある学生の支援室を設置するようになった。一方、タイでも2008年に障がいのある学生への教育運営法が施行されており、全国の大学はDSS(Disability Support Service)センターという支援室を設置した。

岐阜大学に現在留学している私は、まず岐阜大学における支援室について調査を始めた。障がいのある学生やその支援に当たる教員へのインタビューも行なった。次に、私の母校であるカセサート大学における支援室について考察し、最後に、両校の支援室の現状を比較した。

岐阜大学もカセサート大学も、障がいのある学生へのサービスは法律が施行されてから具体的な支援室が設置されたことが共通点であるが、他にも共通点があることが明らかになった。それは国からの予算給付、スタッフ人数の問題、支援室の情報へのアクセスの不便さなどである。一方、在学学生人数や環境が異なるため、支援室の扱いに違いがあることも理解した。

10. 徐恩愛(ソ ウネ・韓国)

「日本における公共広告 —時代と公共広告の関係性を探る—」

キーワード:AC ジャパン、日本の公共広告、いじめ問題、東日本大震災、社会の変化

要旨:日本の公共広告はAC ジャパンという団体がその中心となり、そこから様々な公共広告が発信されている。「広告は説得のコミュニケーションとして社会に奉仕すべきだ」という理念で1971年創立したAC ジャパンは現在に至るまで日本社会に向け、多様なメッセージを出しつつ、より良い社会を目指して活発な活動をしている。AC ジャパンから送り出されている公共広告は、日本社会が抱えている問題を解決することを目的としているため、それが制作された時代とその時代に発生した事件の影響が欠かせないと思われる。

本稿では公共広告とそれが作られた時代の関係性を探ることを目的に、5つの事件(または社会の変化)を挙げ、それに関連すると思われるいくつかの広告を紹介した。そのうち中心となるのはいじめ問題と東日本大震災である。この調査から、公共広告は大きな事件や法律の変化による社会認識の変化を促進するため広告を発信しており、それが出された時代や事件と密接な関係を持っていることが確認できた。